

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

「共に。」で土木インフラをニャンとかしたい！ “しゅうニャン橋守隊”による猫の手メンテナンス活動

2 取組期間

平成 27 年度～（継続中）

3 取組概要

産・官・学・民の幅広いメンバーで構成する“しゅうニャン橋守隊”が、猫のように気ままに不定期に集い、市内の身近な橋の清掃や簡易点検を行うことで、土木インフラの長寿命化活動を実施している。

本取組は、「いつでも」「誰でも」「簡単に」日常生活の延長上で実施できるインフラメンテナンスを体験型活動として提供するとともに、土木施設の重要性や現状を広報することで、インフラメンテナンスへの理解促進や土木の魅力発信にも取り組んでいる。

4 背景・目的

【背景】

道路法施行規則の一部を改正する省令（平成 26 年国土交通省令第 39 号 H25. 3. 31 交付）で示された施設の近接目視点検により、橋の損傷が顕在化している。財政難や技術者不足といった与条件の中、できることから行動しよう！という職員の呼びかけに共感した産・官・学・民の有志が集まり、“しゅうニャン橋守隊”が発足した。

【目的】

（1）インフラ長寿命化修繕計画における予防保全の一助

施設管理者の目が行き届きにくい橋を地元の建設技術者やその橋を利用する住民達が愛着を持ちながら清掃・簡易点検することで、インフラのきめ細やかなメンテナンスによる長寿命化と状態把握が期待される。

（2）土木インフラの重要性の啓発並びにインフラメンテナンスへの理解促進と裾野拡大

活動を通して、普段「土木」に触れる機会のない住民や子ども達が、土木の魅力に気付き、インフラメンテナンスに興味・愛着を持つことで、将来の建設技術者の確保や理解者・支援者の裾野拡大が期待される。

5 取組の具体的内容

(1) 橋守活動

産・官・学・民の有志が、できる範囲で無理なく・無理せず、立場の枠を越えて、それぞれ異なるアプローチで各々のメリットも感じながら「橋の清掃や簡易点検」といったインフラメンテナンス活動を実施している。また、補修体験や簡単な座学を通じて楽しみながら土木インフラの重要性を学んでいる。実際に、排水機能の確保が重要であることを学んだ子ども達は、現場に着くなり、自ら排水装置を探しだし、競って清掃する姿がみられ、次世代への働きかけも確実に成されていると言える。

これらの活動は、インフラの長寿命化に直結するだけでなく、インフラメンテナンスに対する理解者・支援者の裾野拡大が期待され、応募時4月末現在で、のべ30橋、のべ約380人（活動時の年齢構成：2歳～69歳）が参加している。

(2) 啓発活動

インフラに愛着をもってもらいたい市の施設管理者（道路課）と子どもに非日常体験を提供したい市立幼稚園の協力により、橋の補修工事現場を活用したお絵かき体験を実施した。また、活動に共感する山口県職員に協力いただき、土木工事現場見学を実施した。このように目頃注目されない土木インフラそのものを利用することで、インフラの重要性を啓発することができている。

（事例1）市の組織間でコラボした土木の魅力発信（道路課 x 幼稚園）



橋の補修工事現場におけるお絵かき体験とインフラメンテナンスの大切さを伝える紙芝居

（事例2）山口県の土木工事現場とコラボした家族向けイベントによる土木の魅力発信



ダム工事現場見学の集合写真と見学風景

水路トンネル工事現場見学の集合写真と見学風景

【受賞歴】

- 2015年 10月 27日 職員提案制度 Best カイゼン賞 「” ついでに” 橋守活動」 周南市役所
- 2016年 7月 22日 イメージアップ賞 優秀賞 「” ついでに” 橋守活動」 山口県建設技術協会
- 2017年 7月 24日 第1回インフラメンテナンス大賞 国土交通大臣賞 国土交通省ほか5省



自ら排水装置を清掃する子ども達

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

【独自性・新規性】

「橋守」は、橋のそばに住み、きめ細やかな維持管理を行う専門家を意味するが、本取組では、「いつでも」「誰でも」「簡単に」活動できる取組みに特化したことが特徴であり、世代や立場を問わず全参加者が活躍できる。

また、施設の老朽化は橋以外にも全インフラが直面している問題であるが、本取組は橋に限定せずに全ての土木インフラへの適用を検討できるものであることから、各地で同種の活動展開も期待できる。また、この活動では、世代や立場の異なる人が集まって共通の目標であるインフラメンテナンスに取り組んでいるが、普段接点のない人との新しい出会いやその中で交わす何気ない会話は、各々の立場に対して新鮮なインフラに対する思いを生んでいる。実際に参加者の声を聴くと、子ども達や地域住民はインフラに“愛着”をもち、その姿を目の当たりにする土木技術者や管理者は、自らの仕事の意義を再認識でき、それが“誇り”となり、普段接する機会がないこの専門家達と交流の機会を持つ学生は学びに対する“明確な目標”をもつ等の好循環が生まれている。

【工夫した点】

活動に強制感があると続かないと考え、“しゅうニャン橋守隊”は産・官・学・民の有志が集まる「場所」と位置付けた。また、インフラメンテナンスを純粋なボランティア活動としてではなく、“気軽に参加できる体験型アクティビティ”と定義することで、遊び場の少ない地方では、立派な家族の週末イベントとなり、「補修体験」・「簡単な座学」・「見学会」等を取り入れることで、日常を支える土木インフラを使って非日常を体験することができ、子どもの好奇心を掻き、楽しみながら活動している。

7 取組の効果・費用

（1）橋守活動による効果

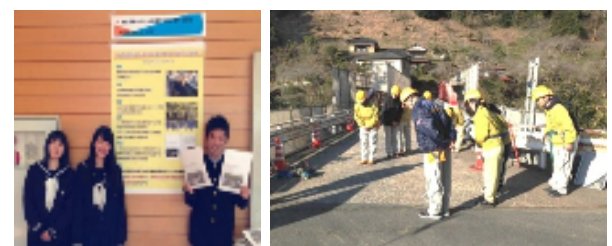
清掃や簡易点検により、インフラの長寿命化やきめ細やかな維持管理を実現するとともに、活動を通じてインフラメンテナンスの重要性を実体験として学ぶことができる。右の写真は、橋守活動で発見した損傷を施設管理者で速やかに補修した事例である。

（2）啓発活動による効果

次世代を担う学生達のインフラへの興味・愛着の創出の場にもなっている。当活動に参加した普通高校生が大学で土木を専攻したり、工業高等専門学校生が研究にフィードバックすることで、自身の学びを再確認できている。これらは、若者の将来目標設定にも非常に良い影響を与えている。更にその次の世代を担う子ども達にも直接働きかけられており、1/2成人式で「橋の技術者になる」と言った子どもや、イベントで同世代の小学生に土木の魅力伝える頼もしい子どもの姿もみられ、橋守精神の浸透が伺える。

（3）費用

「楽しむ」ために必要な経費や安全・体調管理にかかる費用は、助成金や参加者の持ち寄りによっているが、橋守活動に必要な最低限の経費（安全管理のための保険や必要な資機材等）については、市が設ける補助等により負担できるため、特別な費用を必要としない費用対効果の高い取組みとなっている。



8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

(1) 安全管理

本活動を行うためには、現場の安全確保が何よりも重要である。活動前に施設管理者へ活動の主旨説明を行いながら、事前の安全指導も受けるようにしている。また、保険にも加入し、活動中は、熟練者により確実な安全管理を行いながら、参加者への丁寧な事前説明と危険予知活動を実施している。特に、子どもの行動には注意が必要であり、活動場所の選定や作業分担にも配慮している。これらは、活動を通じた日常生活における交通安全意識等の向上にもつながっていると考えている。

(2) 活動の展開と情報発信

協働によるインフラメンテナンスの輪を広げるために、参加者の継続的な確保と活動の普及が重要である。初回の活動から2年間続けたアンケート等により、参加者が感じる充実感や提案等を収集・評価し、活動のブラッシュアップに努めている。

更に口コミ（経験談）や講演会等で活動のリアルを伝えるとともに、SNSやHP等を活用した情報発信も積極的に行うことで水平展開に努めている。

9 今後の予定・構想

【今後の予定】

橋守隊員個々での清掃や簡易点検活動は気ままに不定期に実施していくが、団体活動として、少なくとも年間6回（橋守活動4回と啓発活動2回）以上の活動を目指して、地道に地固めをしながら活動を継続し、同志を増やしていきたい。

【構想】

我々は、この『地域のインフラを地域自らが守っていく活動』が、全国各地で当たり前の活動として展開されていくことが理想としている。その内容は、地域毎に地域に合った形で構築されれば良いと考えているため、本取組が各地域で同種の仕組み作りのヒントとなるように、今後も背伸びせず、身の丈に合った形で丁寧に情報発信を継続していきたい。

10 他団体へのアドバイス

強制感があると続かないため、気負いせず、気ままに取り組むための工夫が必要である。この活動では、「老朽化」や「財政難」等、一見、マイナスのイメージが先行する取組みの中に「楽しみ」というプラス思考を持ち込んだことが重要なポイントと考えている。

また、このような取組みは、行政だけでは決して上手く展開できない。住民を取り込める行政の立場に民間の行動力と教育という強力な活動意義が上手く噛みあつたからこそ実現した活動であると考えている。各々の立場をしっかりと意識した上で、立場の枠を越えて産・官・学・民の積極的な融合が必要不可欠である。そのために、我々行政は組織の中だけでなく、組織の外にも共感する仲間を見つけ、「共に。」活動することが大切であると考えている。

11 取組について記載したホームページ

しゅうニャン橋守隊 Facebook ページ <https://www.facebook.com/catsb.project/>

しゅうニャン橋守隊ホームページ <https://catsbproject.wixsite.com>